

外国人観光客へのおもてなし

学生たちが英語で書道をレクチャー

東洋学園大学

東洋学園大学(東京都文京区)は、旅館「澤の屋」(東京都台東区)を訪れる外国人観光客に対し、学生たちが英語で書道を教えるプログラム「Shodo Experience(書道エクスペリエンス)」を10月24・31日、11月14・21日の



初めての習字に笑顔を見せる外国人観光客

4日程で開催している。

今回で4年目を迎えた同プログラムは、現代経営学部の本庄加代子准教授が担当する「プロジェクトマネジメント」の授業の一環として行われているもの。成長を続ける国内のインバウンド市場において、ビジネス感覚を磨くことが狙いだ。また、プログラムの企画から運営までを学生たちが自身がグループを組んで担当することで、「期限までに仲間と協働し、プロジェクト成果を出す」というマネジメンツスキルを伸ばすことも企画されている。

10月31日に実施された同プログラムでは、外国人観光客に学生たちから英語で積極的な話しかけ、折り紙などの日本文化を紹介。さらに、参加者の名前を漢字の当て字に置

「特別な体験ができた」と喜ぶ参加者と学生たち



き換えるなど、書道を親しみやすくレクチャーした。

当日の運営に携わった現代経営学部現代経営学科4年生・長谷川航輝さん(翔漢高等学校出身)は、「準備中は全体のイメージが掴めずに不安でしたが、お客様と話す時間が一番楽しかったです。ロビーにBGMをかけるなど、少しずつ改善点を見つけて工夫しました」とコメント。さらに、グループのリーダーを務めた同学科3年生・野本祐也さん(関東第一高等学校

校出身)は、「準備を始めたばかりの時は、期日はあるけど段取りは何も分からないというような状態でした。リーダーとしては、メンバーへの情報の周知徹底と、役割分担をはっきりさせることを意識しました。具体的には、リーダー・会計係・備品係・営業係・英語係・買い出し係・企画係を作り、また、兼任でサポートする人も置くことで、誰かが一人だけで無茶をしないよう心がけました」と、グループでプログラムを成功させる苦労を語った。

この授業を担当する本庄准教授は、「慣れない環境の中で学生たちはとても背伸びをします。プロジェクトの成功のためには、お互いの頑張りや個性を認め合って、コミュニケーションを取ることで大事だと伝えていきます。語学に関しても、不慣れた英語でも相手に通じるんだという確信が掴めれば、今後の英語上達のきっかけになると考えています」と、学生たちの成長に期待をこぼしました。